

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2019年 3月 10日

事業所名: しらゆりフレンドリークラブ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	定員、利用人数に合わせて部屋の広さは確保している。	・活動に合わせて空間をうまく活用されている。 ・大きな柱が視野を遮っている。	・大きな柱が死角となるので、職員の立ち位置や子どもの動きに対して事故がないように安全面に配慮していく。
	2 職員の適切な配置	適切に配置している。	・職員の名前や人数はよくわからない。 ・丁寧に対応してもらっている。 ・専門性をもう少し持ってもらいたい。	・職員の資質向上のために積極的に研修に参加し、専門性を高めていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	子どもの特性や障害に応じた環境整備をしている。(視覚支援、構造化、手すり等の設置など)	・スロープやエレベータなど配慮されている。 ・玄関入口以外は段差もなく、安全面に配慮されている。	
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・毎日室内の掃除と消毒を行っている。 ・感染対策としての加湿器の設置など環境整備に努めている。	・壁紙が剥がれていた。 ・活動に合わせて空間が作られている。	・子どもたちが心地良く、快適に過ごすことができるよう環境の整備に努めていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	定期的に会議を開催し、職員間での意見交換、情報共有をしている。		
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施していない。		
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	法人内部研修及び外部研修へ積極的に参加している。		・職員全体の質の向上を目指し、積極的に研修参加を推奨する。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	本人及び保護者要望書を毎年提出してもらうとともに、療育相談により子どもと保護者のニーズを確認し、計画作成に反映している。	・分野別に整理されており、わかりやすくよい。 ・療育相談などで取り入れてほしいことや意見など聞いてもらっている。 ・支援計画には、支援が必要な項目をわかりやすく書いてもらったり、今の状況から目標達成のためにどうすべきかが反映されている。 ・フィードバックの話し合いをしてほしい。 ・OT,PT,STの療士がいてほしい。	・本人及びご家族のニーズを把握し、連携を図りながら計画作成を行っていく。また、目標達成に向けて、ご家族との情報共有を密に取り組んでいく。 ・日々の観察とともに、現状と課題を把握しながら、目標達成に向けて支援計画を立てていくことができるよう、職員間での連携強化を図っていく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	長期目標、短期目標を設定し、それぞれの項目ごとに支援の方法を明記している。		
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	進路・知能・行動・運動・生活面の領域に分けて目標と支援方法を設定している。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供 (続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画に合わせて支援を行うとともに、課題や支援の方法等については会議で職員全体で話し合い、情報共有を図っている。		・アセスメント、ケース検討会議、支援計画作成会議等により、支援計画を職員全体で共有し、取り組んでいく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	活動の担当を決めて、活動内容を立案し、実施している。		
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	個別のニーズに合わせて活動を提供している。(放デイ)	(放デイ) ・活動プログラムの具体的内容が分からない。 (児発) ・今の状況に合わせて対応している。 ・保育園などとの交流の機会があると良い。 ・その時期に合った活動を取り入れてくれている。	
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	月間予定表を作成し、継続した活動が提供できるようにしている。(児発)		・年間を通して継続した活動プログラムを設定していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・その日の担当及び役割分担をホワイトボードに示し、確認している。(児発) ・業務日誌にその日の担当を明記し、送迎時間及び人数、担当割を確認している。(放デイ)		・業務内容や担当について、職員間で確認する。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	話し合いの時間を日々設けてはいないが、必要に応じて職員間で情報を共有している。また、情報の共有を徹底するため、引き継ぎ書を活用している。		
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	・個別記録の記入を徹底し、記録漏れがないようにしている。支援の方法において、困難事例に関しては会議で検討し、支援の方向性を話し合っている。		・業務終了後、個人記録の記入を徹底していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6ヶ月に一度、目標達成の評価を行い、支援計画に対する見直しをしている。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	依頼がないため、参加したことはない。		
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・保護者を通して進路先へ配布できるように、必要に応じて情報提供資料を作成している。 ・見学や電話による情報提供等にも応じることが出来るようにしている。		・進路に向けての円滑な移行と卒園後のフォローアップのため、関係機関との連携を図っていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	情報提供の要望があれば、保護者を通してまたは保護者に確認の上、実施している。		
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・会議や部会等に参加し、情報交換をしている。 ・研修へは積極的に参加している。		
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	保育園、幼稚園または児童館等との交流の機会は持っていないが、親子行事に利用児童の兄弟姉妹も参加し、交流の機会を作っている。	・行事を通して交流はできている。	・地域の保育園・幼稚園・児童館等との交流の機会を今後検討していきたい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	行事に地域のボランティアの方に協力をしていただいている。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	・施設見学の際、園での過ごし方や、具体的な活動プログラム等について説明している。 ・利用者負担(利用料)については、契約時に具体的に説明している。	・契約時に丁寧に説明してもらった。	・積極的に施設見学を受け入れていく。 ・施設利用についての詳細をわかりやすく伝えるためのパンフレット(入園の案内)を作成し、活用していく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	療育・進路相談で支援内容や目標について説明している。		・療育相談の場で支援計画について確認していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	保護者の方からの悩みや困りごとなど、適宜相談を受け、対応について伝えている。		
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡ノートを活用したり、送迎時に直接お話をさせてもらい、共有している。	・連絡ノートで毎回状況を伝えてもらっている。 ・困ったことや今の課題、園での子どもの様子を伝えてもらえ、理解して支援してもらっている。	
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	・電話による相談や必要に応じて面談をしている。 ・年2回療育相談を設けている。	・個別に面談してもらったり、不安や悩みがあるときにはアドバイスをもらっている。	
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	会としての組織はないが、月1回保護者の方が集まって話し合いの場としての交流会を開催している。	・毎月交流会や親子行事に参加している。 ・交流会で他の方の話を聞く機会を作ってもらっている。	・今後同じ悩みを抱える保護者の方を対象とした家族の会の設立を検討している。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情等があった場合は、内容を確認し、迅速に対応するように努めている。	・苦情ではなく、希望する事柄に対して細やかに対応してもらっている。	・今後も子どもやご家族からの意見等に対しては丁寧かつ迅速に対応していく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮		・連絡ノートや送迎時に活動の様子などを職員と話す機会がある。 ・連絡ノートや保護者会等で意思疎通が図れている。	
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・年間の行事予定表を年度当初に配布している。 ・連絡ノートを活用したり、定期的に行事案内の通知をしている。	・行事予定表を配布してもらっている。 ・わからない。	
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	・法人内で個人情報保護に関する規定を整備している。 ・契約時に個人情報に関する同意書について説明し、保護者の方には同意をいただいている。	契約書に守秘義務が示されているが、具体的にどのようなになっているかわからない。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルは策定し、整備しており、職員はいつでも閲覧できるようにしている。	・協力医療機関等は聞いているが、防犯や感染の細かいマニュアルは確認できていない。	
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的に避難訓練を実施し、災害時の対応を職員間で確認している。	・避難訓練を実施していて、こどもも非常時の体験をもらっている。	
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待防止・人権擁護に関する外部研修及び内部研修に参加している。		
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束の事例は現在のところない。		
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	契約時にアレルギーの有無について聞き取りを行うとともに、環境調査表(フェースシート)に記入し、提出してもらう。また、詳細については、その都度保護者から聞き取りを行い、給食担当者に引き継ぎをしている。		
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事象が発生した際は、ヒヤリハット報告書を作成し、改善策を職員会議で話し合い、共有している。		・事故防止に努め、事故発生時には原因や対応方法等職員間で共有し、改善策を早急に話し合っていく。